

Ⅳ スギ材の効率的な葉枯らしシステムの開発

(実施期間：平成29年度～令和元年度 予算区分：県単 担当：桐林真人)

1 目的

鳥取県産スギ材の原木価格向上のため、葉枯らしに要する具体的な期間や乾燥の状況や、葉枯らしによる材色の変色への影響を数値化して、葉枯らし施業の取り組みを振興する。

2 実施概要

(1) 方法

智頭町宇波地内の70年生スギを、入梅後(6月下旬、n=6)に伐採して葉枯らしに供し、乾燥の進行具合を調べた。乾燥状況は、応力波伝搬時間(SPT)計測器 FAKOPP を使った定点間での SPT 計測による、期首値との相対比較とした。また葉枯らし後の造材を再現するため、定期的に木口に新鮮な切断面を設け、その後の変色を色彩計で計測して、葉枯らしによる材色の変色抑制効果を検証した。

(2) 結果

葉枯らしに要する期間や時期について、過年度の計測結果も含め検証した結果、葉枯らし乾燥に好適な条件として、8月下旬から葉枯らしを開始すると良いこと(図2)、期間は2か月以上とすることが明らかになった。さらに、伐採後2か月以上経過すると、造材後の切断面が変色しにくくなることわかった(図3)。これらの結果を葉枯らし材の生産向上に役立てるため、リーフレットを作成し、普及のツールとして関係機関に配布した(図4)。

3 結果の図表と研究の様子



図1 木口の切り直し状況

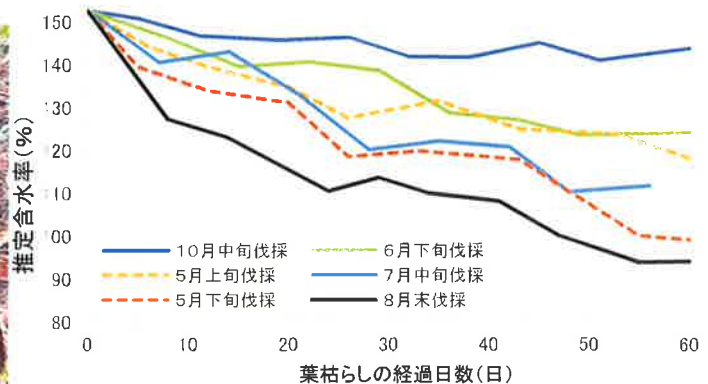


図2 伐採時期による乾燥の進行の違い

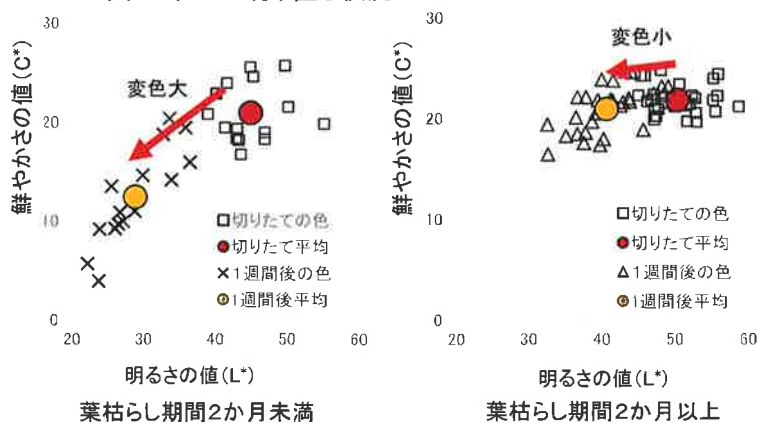


図3 葉枯らし期間の違いによる造材後の木口心材色の変化の違い



図4 リーフレット